



日本、そして世界でますます広がるエコ・健康・オーガニック志向。日本のティーインストラクター方々数名からもぜひ知りたいという声を頂き、今回はこうした動きと現状について、現地のお買い物情報とともに日本人主婦の目線から書かせていただくことにしました。

- (1) インドのエコ・オーガニック・健康志向
- (2) コルカタで良い紅茶が購入できるスーパーマーケット
- (3) オーガニック紅茶



オーガニック野菜や自然派製品を集めた期間限定のファーマーズマーケット

(1) インドのエコ・オーガニック・健康志向

世界で起こっている環境問題・健康問題への関心の高まりや、ビジネスの変化にとともに、インドでも私が来た約8年前に比べるとかなりエコ・オーガニック・健康志向が高まっていると感じます。

ただし、日本に比べるとまだまだ始まったばかりで、本当に関心を寄せているのは、都市部

に限った場合でも人口の 1 パーセントをはるかに下回るといわれています。現地の紅茶産業の方とお話しさせていただいた時も、オーガニック紅茶のインド国内需要は非常に低く、利益を考えた場合のビジネスとしては国内では期待できないとのことでした。



左：ペーパーストローのアイ스티ー



右：スチールストローのココナツツウォーター

ペーパーストローもコルカタ市内のレストランではだいぶ利用されるようになってきました。デリバリーやテイクアウトで使用されてきたプラスチックのカトラリーや器も、できるだけ木製や紙製のものに代える動きも見受けられます。大手スーパーなどお店のプラスチック製レジ袋はほぼ有料で、プラスチック以外の再生可能なショッピングバッグを使用するところがここ数年でかなり増えました。ただ、世界のほかの国々と同様、こういった動きに関心があるコミュニティと無関心なコミュニティの差はかなり大きいと感じています。



下：有機栽培で有名なサングマ茶園などを経営するジェイシュリー社のテイスティング会にて。ダージリンの白茶やファーストフラッシュとペアリングされていたのは、ヘルシーな野菜の”お寿司”でした。



(2) コルカタで紅茶が買えるスーパーマーケットやお店



● Spencer's (スペンサーズ)

コルカタにいらしたことがある方はきっとご存じの Spencer's があげられます。大きなショッピングモールに入っており、外国人も買い物がしやすく、現地の人々の生活を肌で感じることができます。写真はキャスルトンやタルボのリーフティーなど。キャスルトンのティーバッグは値段も手ごろでクオリティも高く、気軽なお土産としてとてもおすすめです。一部オーガニックも取り扱っています。

● Nature's Basket

スペンサーズと同じ系列ですが、オーガニック食材、高級食品、輸入食材を多く取り揃えている Nature's Basket が数年前にオープンしました。Park Street というコルカタで一番レストランなどが多く集まる一等地にあります。

その他のスーパーよりも掃除が行き届いているため清潔で、空いており、レジもあまり並ばずに済むのもありがたいところです。

こちらの紅茶売り場は、一部オーガニックや、小売店ではなかなかみかけない比較的高級な茶葉があり、またスパイスのコーナーにはチャイやインド料理に使えるオーガニックスパイスなどが置いてあります。



●オーガニック・インディア

こちらはオーガニックやアユールベエダの食料品、サプリメント、スキンケア製品のみを扱うオーガニック・インディアです。スーパーでも一部製品の取り扱いがありますが、Loudon Street の Fabindia Building 内にあるこちらの店舗はハーブティー（ハーバルインフュージョン）の品ぞろえが一番多くあります。こちらのお茶は、コルカタでも健康志向が高い方たちの間ではとても人気で、外国の方々にも注目されているオーガニックブランドです。Natures' s Basket がある Park Street からも車ですぐの位置にあります。



(3) オーガニック紅茶

世界中のオーガニック・健康志向の高まりを受けて、インドでもオーガニック紅茶が生産されるようになってからかなりの年月がたちました。コロナが長引く現在、オーガニック紅茶の生産がどうなっているのか、知り合いの紅茶業界の方数名にお話を伺うことができました。とても長いお話しになりましたのでその一部をご紹介します。

ご存じの通り、ウェストベンガル州が世界に誇る代表産業であるにもかかわらず、様々な事情により経営がとても難しいダージリン茶園の生き残りにかけて日々努力されているインドの方々のメッセージが日本の皆様に届けば幸いです。

●ダージリンの茶園

政治的大混乱とストライキで基本的にすべての紅茶生産がストップした2017年がまだ記憶に残る中、2020年のコロナ発生以降に行われたインド政府の厳しい完全ロックダウンや、労働規制、輸送手段の混乱などを経て、2022年現在、茶園と紅茶産業は、現在は完全に通常通りの業務が行われています。

●オーガニックダージリンティーを主に購入している国（ジェイシュリー社の例）

オーガニック紅茶を栽培する茶園を5つ経営しているジェイシュリー社では、世界60か国以上に輸出しており、主な輸出先としてはドイツ、フランス、英国、デンマーク、チェコ共和国、米国、カナダ、日本、台湾、シンガポール、中国などがあげられます。

●オーガニックダージリンティー栽培の難しい点

・オーガニック栽培をすることによる生産ロス：通常の非有機栽培時と比べた場合、収穫が30%-40%減少してしまう。これはオーガニック栽培開始後10年～15年たっても同じ程度のロスが発生しているケースが多い。

・生産コストの著しい上昇：ここ数年生産コストの著しい上昇が続いており、販売価格を多少上げても埋め合わせることができていない。ビジネスとして成り立ちにくいことから輸出ディーラーも取り扱いを避けることが多い。

・労働者確保：労働者の確保が難しくなっているが、土地柄、機械化をすることもできない。

・価格：有機紅茶を希望する輸入業者は多いが、価格が高いという問題で買い控えられる。先行投資額と生産コストが高さに加え、ウェストベンガル州の全体的な物価、人件費、輸送料などの著しい高騰が続く中では卸価格の上方修正は避けることができない。



このような中、ダージリンに限らずアッサムにおいても、せつかく多大な投資をして有機栽培を始め、認証やサティフィケートを取得した茶園も、利益が上がらないため元の非有機栽培に戻ってしまう茶園のケースがここ数年たびたびニュースになりました。

紅茶会社は高品質の紅茶を生産しつつ、輸入業者へのカスタマーサービスを徹底することで、信頼関係の強化につとめています。またジェイシュリー社の例では、高品質の茶葉を作ることに加え、茶畑から紅茶がカップに注がれるまでのトレーサビリティが確保されるよう独自の努力がなされているそうです。



上：ネットや小売店で購入できるオーガニック紅茶

世界の紅茶愛好家がこうした状況や有機紅茶の価値を正しく理解したうえで高価格と一般的に言われやすいオーガニック紅茶を購入し、需要と認知度を上げていくことが、今後のダージリン有機紅茶の今後を大きく左右することになるというのが、今回お話を伺った皆様の一致した意見でした。

今回はいち主婦の立場からコルカタの健康志向とオーガニック紅茶について書かせていただきました。やはり紅茶についての正しい情報や知識をもったうえで、日々の紅茶を楽しむことの大切さを改めて感じました。最後までお読みいただきありがとうございました。



一部の写真やインタビューでご協力いただいた企業：Glenburn Tea Estate, Purba Tea Exports, Jayshree Tea and Industries.

19期 湯浅有紀子